

部活動の地域展開について

～子ども達の成長を地域全体で支える環境づくり～

1 はじめに ～部活動の地域展開とは～

■中学校部活動の現状

◆児童生徒数

高松市内には現在、小学校49校、中学校24校（分校2校含む）の計73校の市立小・中学校があり、令和7年5月1日現在で児童生徒数は、31,045人と10年前の平成27年の35,009人から**3,964**人減少。

	H27	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
小学校計	23,466	22,899	22,599	22,369	21,942	21,666	21,226	20,601
中学校計	11,543	10,969	10,844	10,887	10,936	10,673	10,594	10,444
合計	35,009	33,868	33,443	33,256	32,878	32,339	31,820	31,045

いずれも5月1日現在の数

1 はじめに ～部活動の地域展開とは～

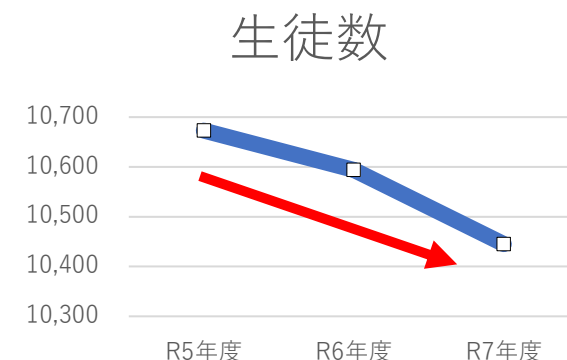
■中学校部活動の現状

◆部活動数

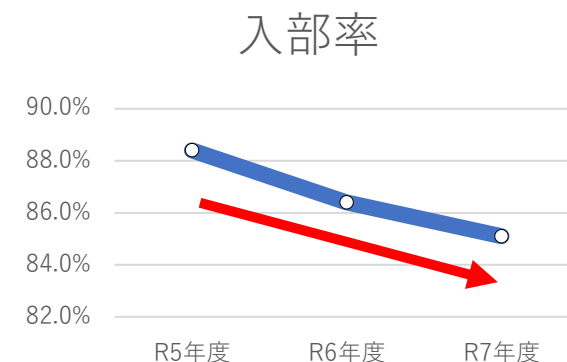
生徒数とともに入部率についても低下傾向。部活動の継続が困難。

	R 3 年度	R 4 年度	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度
学校数（分校を除く）	22校	22校	22校	22校	22校
設置運動部活動総数	208部活動	206部活動	204部活動	217部活動※	212部活動
設置文化部活動総数	—	—	89部活動	86部活動	84部活動
生徒数	10,887人	10,936人	10,673人	10,594人	10,444人
運動部活動入部者数	7,277人	7,120人	6,755人	6,576人	6,305人
文化部活動入部者数	—	—	2,681人	2,575人	2,585人
入部率（全体）	—	—	88.4%	86.4%	85.1%
運動部活動顧問数	583人	571人	534人	503人	474人
文化部活動顧問数	—	—	—	162人	163人
外部指導者配置部活動数（運動部）	30部活動	24部活動	36部活動	38部活動	40部活動
外部指導者配置部活動数（文化部）	—	—	—	6部活動	6部活動

※部活動総数が増えているのは、大会のためだけの特設部の設置によるものと考えられる。



229人(2.2%)減



3.3%減

1 はじめに ～部活動の地域展開とは～

■学校部活動から地域クラブ活動への転換

急激な少子化が進む中でも、将来にわたって生徒が継続的にスポーツ・文化芸術活動に親しむ機会を確保・充実するのが改革の主目的。
学校単位で部活動として行われてきたスポーツ・文化芸術活動を、地域全体で関係者が連携して支え、生徒の豊かで幅広い活動機会を保障。 「地域スポーツ・文化芸術創造と部活動改革に関する実行会議」最終とりまとめ

	学校部活動	地域展開	地域クラブ活動
位置付け	学校教育の一環 (教育課程外)		【位置付け】学校と連携して行う地域クラブ活動 (法律上は社会教育、スポーツ・文化芸術)
運営団体・実施主体	各中学校		①地方公共団体 ②多様な組織・団体
指導者	当該校の教師		地域の指導者 (一部教師の兼職兼業)
参加者	当該校の生徒		地域の生徒
場所	当該校の施設		学校施設、社会教育施設、公共のスポーツ・文化施設 等
費用	用具、交通費等の実費		指導者謝金、用具費等 参加者からの会費で運営
補償	災害共済給付		各種保険等

2 地域クラブ活動の在り方

■基本的な考え方

「地域クラブ活動」においては、生徒を中心に考え、豊かで幅広い活動が実現されるよう、これまで学校部活動が担ってきた教育的意義を継承・発展させつつ、**新たな価値**を創出することが重要。

■地域クラブ活動において実現が期待される新たな価値の例

- ・生徒のニーズに応じた**多種多様な体験**
(1つの競技種目等だけに専念するのではなく複数の競技種目等に取り組むマルチスポーツや、スポーツと文化芸術の融合、レクリエーション的な活動や柔軟なルール等に基づく多様な活動を含む)
- ・生徒の**個性・得意分野**等の尊重 ・学校等の**垣根を越えた仲間**とのつながり創出
- ・地域の様々な人や幅広い世代との**豊かな交流**
- ・適切な資質・能力を備えた指導者による**良質な指導**
- ・学校段階にとらわれない**継続的な活動**（引退のない継続的な活動）及び地域クラブの指導者による**一貫的な指導** 等

3 地域クラブ活動の必要性

■部活動がなくなるとどうなるのか

◆中学生の生活

部活動がなくなると…

家庭等で過ごす時間が増加

(例)

友達と過ごす時間が減った。

何をして過ごしたらいいかわからない。

スポーツをしたいが活動場所がない。

等

3 地域クラブ活動の必要性

■部活動がなくなるとどうなるのか

◆文化・スポーツ活動

これまで

中学校から新しく始める活動も、顧問の先生が基礎技術から指導

継続した練習による技術力の向上

決まった時間の練習により、規則正しい生活習慣や定期的に体を動かす運動習慣が身につく

部活動がなくなると…

- ・ 高校生や大人になってから、基礎的な技術指導が必要
- ・ 技術力の低下
- ・ 運動習慣が身につかない
- ・ 規則正しい生活の乱れ

大人になってから新しいことを始めるのは心理的ハードルが高い。

(例)

なかなか基礎的な技術が身につかない。



- ・ 競技力の低下
- ・ 競技人口の減少
- ・ スポーツ活動、文化活動に取り組む人の減少

3 地域クラブ活動の必要性

■中学生の発達段階

◆心の発達（3）青年前期（中学校）

「子どもの発達段階ごとの特徴と重視すべき課題」
文部科学省「子どもの徳育に関する懇談会」

中学生になるこの時期は、思春期に入り、親や友達と異なる自分独自の内面の世界があることに気づきはじめるとともに、自意識と客観的事実との違いに悩み、様々な葛藤の中で、自らの生き方を模索しはじめる時期である。また、大人との関係よりも、友人関係に自らへの強い意味を見いだす。さらに、親に対する反抗期を迎えたり、親子のコミュニケーションが不足しがちな時期でもあり、思春期特有の課題が現れる。また、仲間同士の評価を強く意識する反面、他者との交流に消極的な傾向も見られる。性意識が高まり、異性への興味関心も高まる時期でもある。

現在の我が国においては、生徒指導に関する問題行動などが表出しやすいのが、思春期を迎えるこの時期の特徴であり、また、不登校の子どもが増加するなどの傾向や、さらには、青年期すべてに共通する引きこもりの増加といった傾向が見られる。

これらを踏まえて、青年前期の子どもの発達において、重視すべき課題としては、以下があげられる。

- ・ 人間としての生き方を踏まえ、自己を見つめ、向上を図るなど自己の在り方に関する思考
- ・ 社会の一員として自立した生活を営む力の育成
- ・ 法やきまりの意義の理解や公德心の自覚

3 地域クラブ活動の必要性

■中学生の発達段階

◆体の発達

この時期は、骨や筋肉などの器官の発達に伴って、急速に身長が伸び、体重も増えます。また、心臓や肺などの器官の発育に伴い、その機能が発達します。

発育急進期にある思春期には、より多くの酸素や栄養が必要となることから、呼吸器・循環器の機能が急速に発達します。また、呼吸器・循環器は運動との関わりが深い器官です。この時期に適度な運動を継続的に行うことで、呼吸器・循環器の発育・発達がいっそう促されます。

「新しい保健体育」東京書籍 令和3年2月10日発行

◆成人以降のスポーツ活動への影響

また、組織的スポーツ参加は将来の身体活動量に影響を与えるとされており、就学期の運動への所属経験を有するほど、スポーツ参画状況が高い傾向がみられ、この傾向は実施、観戦、ボランティアの各参画方法で共通しているという研究結果もある。

乾順紀、長ヶ原誠、彦次佳、谷めぐみ、藺田大地、松村雄樹、青山将己、松崎淳、三浦敬太、山下耕平

「就学期の運動部所属経験が成人層の運動・スポーツ参画状況に与える影響：成人以降のスポーツ活動の多様化に着目して」2022

望ましい活動ができるように地域クラブの設置が必要

4 地域クラブ活動の内容

■改革を進めるに当たっての基本的な考え方

- 改革の理念等を幅広い関係者で共有しながら地域展開等に取り組むこと。
- 具体的手法は地域の実情等に応じた多様な選択肢を認めること。
- 活動の場を増やすだけでなく、活動内容の質的向上も図ること。
- 対面とデジタルを最適に組み合わせるなど新たな手段も最大限活用すること。
- 受益者負担と公的負担とのバランス等の費用負担の在り方を検討し、国・都道府県・市区町村が支え合いながら適切な支援を行うこと。
- 障害のある子供や運動が苦手な子供等を含め、多様な子供が希望に応じて安心して活動に参加できる環境を整備することが重要であること。
- 地方公共団体等において、地域クラブ活動に関する情報を整理・集約し、学校と連携して、生徒・保護者にきめ細かな情報提供等を行うこと。

4 地域クラブ活動の内容 (案)

■基本目標 (目指す姿)

つながる、ひろがる、かなえる
～みんなで育む新しい地域クラブ活動～

■基本方針 「子ども達の成長を地域全体で支える」

つながる

- 中学生だけでなく、小学生から大人まで誰でも、気軽に参加できる

ひろがる

- スポーツ・文化等の既存の枠にとらわれない、多様な活動の創出

かなえる

- 子どもたちが活動の主役
- 子ども自身が「やりたいこと」を選んで活動できる

4 地域クラブ活動の内容

■「子ども達の成長を地域全体で支える」ために取り組むこと

受け皿となる地域クラブの設立

■多様な活動の例

スポーツ：球技、陸上競技、武道、ダンス、ヨガ、パラスポーツ・ニュースポーツ

文化：音楽、美術、手芸、料理、プログラミング、伝統芸能（獅子舞）、伝統工芸、国際交流

その他：農業、社会貢献、キャリア育成

■想定される実施主体

地域の文化・スポーツ団体（サークル、スポーツ少年団）、民間のスポーツクラブ、

民間の教室（カルチャーセンター）、行政、企業、金融、大学、OB・OGや保護者の団体

子ども達の成長のために、大人が総力を挙げて、
学べる環境をつくる体制が必要

4 地域クラブ活動の内容

■地域クラブ活動による効果

- ・これまで学校で過ごす時間が長かった中学生が、地域の中で過ごす時間が増える。
- ・地域の大人や年少の子どもと活動することで、つながりが増え、地域への愛着心が育つ。
- ・自主的に活動に参加し、活動内容について話し合うことで、自己決定する能力が身につく。
- ・これまで学校になかった活動に参加できる ・興味のある複数の活動に参加できる。
- ・様々な活動をする大人と関わることで、自分の将来像の参考になる。



高松で育ち、高松で学び、高松で暮らして良かったと思える教育

(第3期高松市教育振興基本計画)

(期待できる波及効果)

- ・豊かで強靱な地域づくり
- ・地域の産業や経済の活性化
- ・地域活動の後継者

5 今後の取組について

今後、市長部局等と連携して、以下の取組を進めていく。

スポーツ

今、運動部活動にある競技を継続できる環境づくりに、関係団体（市スポーツ協会、スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブ、競技団体など）や学校、企業などに取り組む。

現在の部活動にはない、新たな競技（ダンス・弓道など）が実施できる環境づくりについて、関係団体等と連携して取り組む。

文化

今ある文化部活動の一部を継続できる環境づくりに、関係団体（県吹奏楽連盟など）や学校、企業などに取り組む。

現在の部活動にはない、新たな活動（伝統芸能・料理など）が実施できる環境づくりについて、関係団体等と連携して取り組む。

5 今後の取組について

その他の 新たな活動

関係局、関係団体・企業等で、中学生を対象にした地域クラブ活動の立ち上げを検討し、市全体で取り組む。
地域クラブ活動の立ち上げに関して、顕在化した課題について、対応を検討する。

【活動例】

- ・ 吹奏楽・合唱
- ・ 茶華道、美術など
- ・ 読み聞かせ
- ・ 農業・盆栽
- ・ 伝統工芸
- ・ キャリア育成
- ・ 社会貢献
- ・ 地域活動
- ・ 生涯学習センターの各種講座

社会教育・生涯学習の
観点からの
多様な学びの場づくり

5 今後の取組について

地域クラブ活動で、子ども達の成長を支え、
豊かな高松を創りましょう

